

『記憶をつなぐ思い出の公園』



久留米工業大学 工学部 建築・設備工学科
3年 井下 佳那
1年 木下 聖奈

アイディアのきっかけは ...

✓ ✓



✓ ✓



世の中で起きてる事が人の心を暗くしていると思いました



心の病で本人とその周りの人気が不安を抱えています



SNS の悲しい言葉で心を痛めている人がいます

世界にも目を向けると…



戦争で苦しんでいる人や国があります



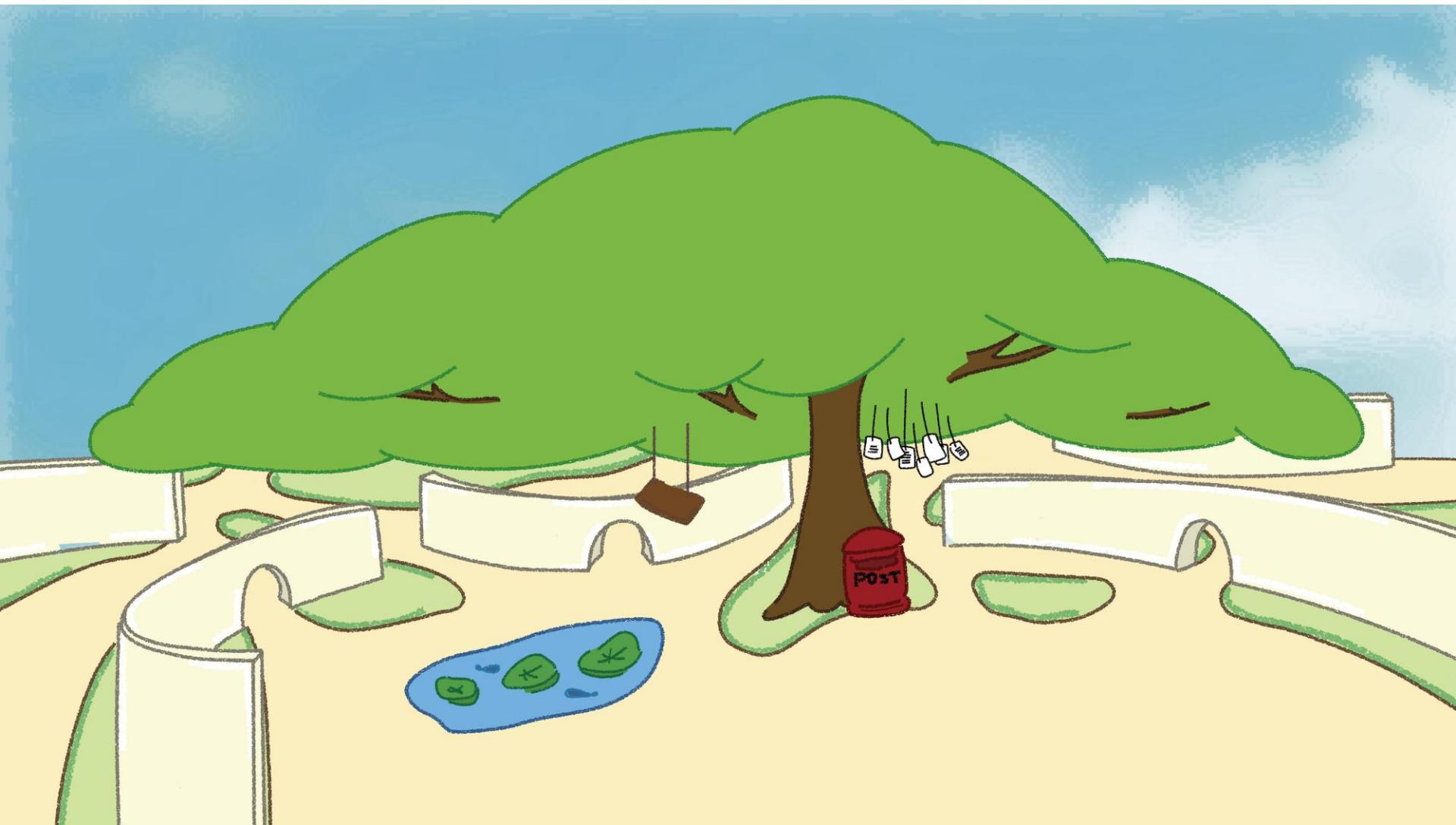
暗い世の中の状況に悲しく思いました

夢がある幸せがあふれる場所が必要だと考えました



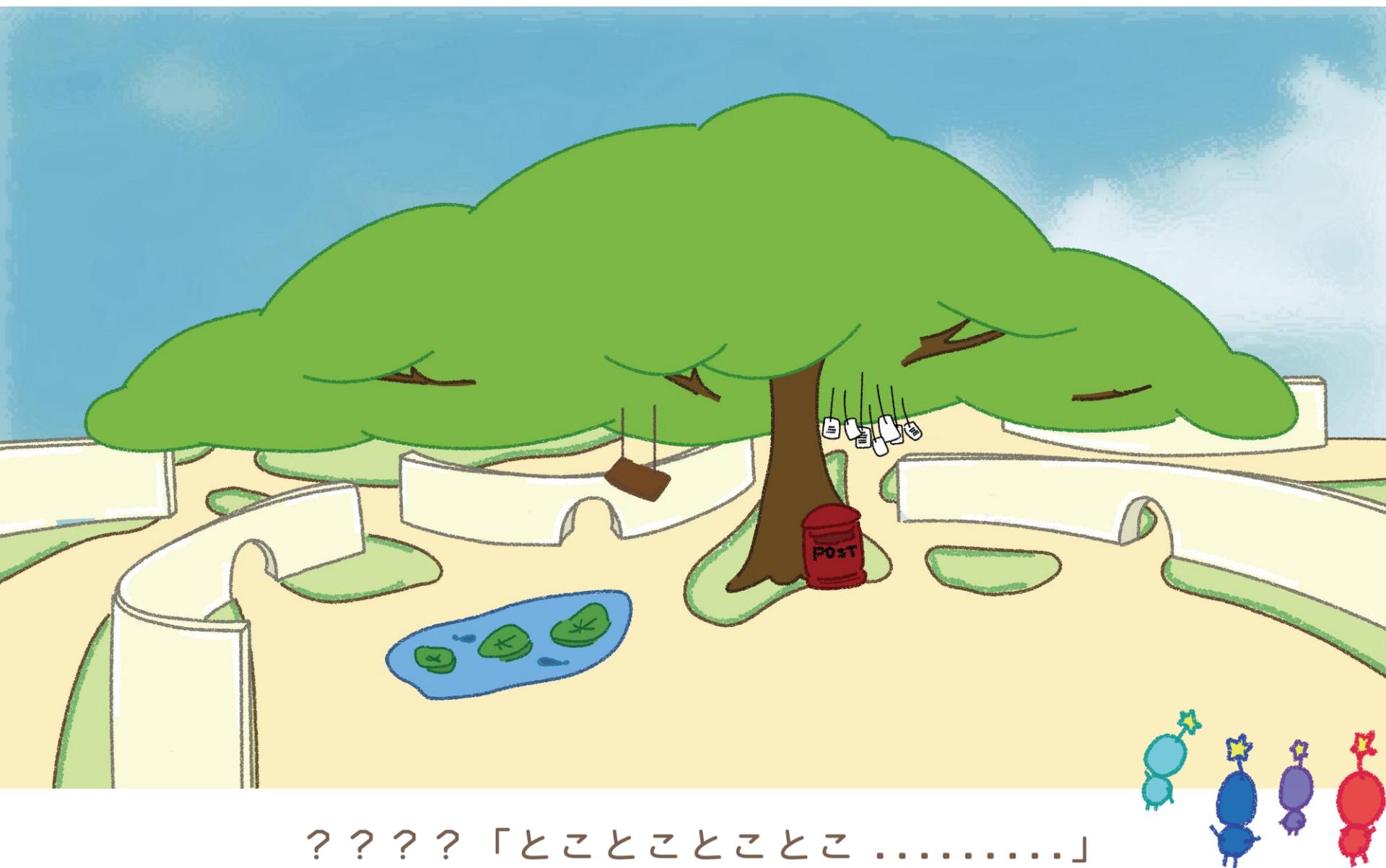
暗い世の中の状況に悲しく思いました

夢のある幸せがあふれる場所が必要だと考えました



それは『記憶をつなぐ思い出の公園』

『記憶をつなぐ思い出の公園』



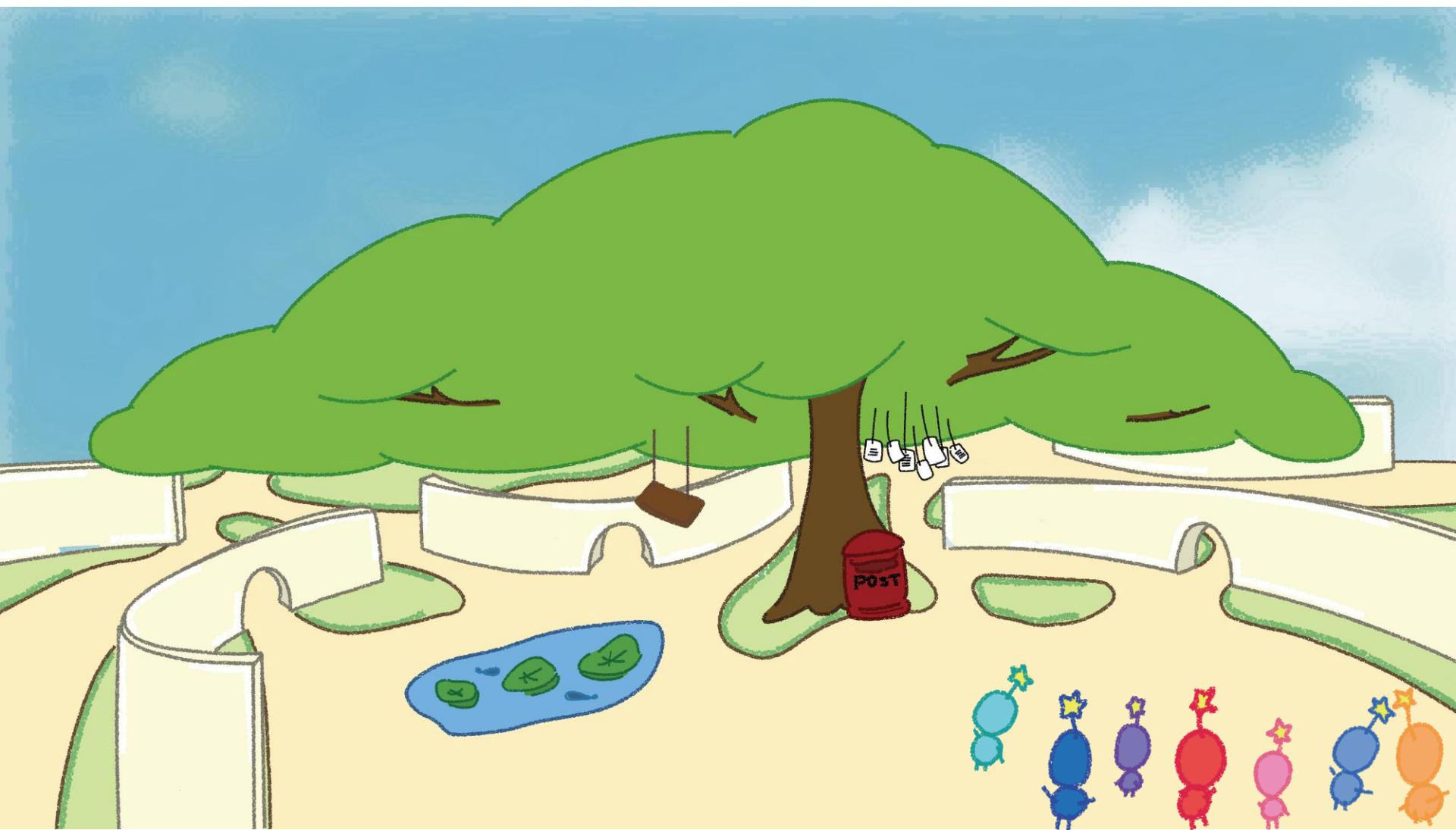
???? 「とことことこことこ」

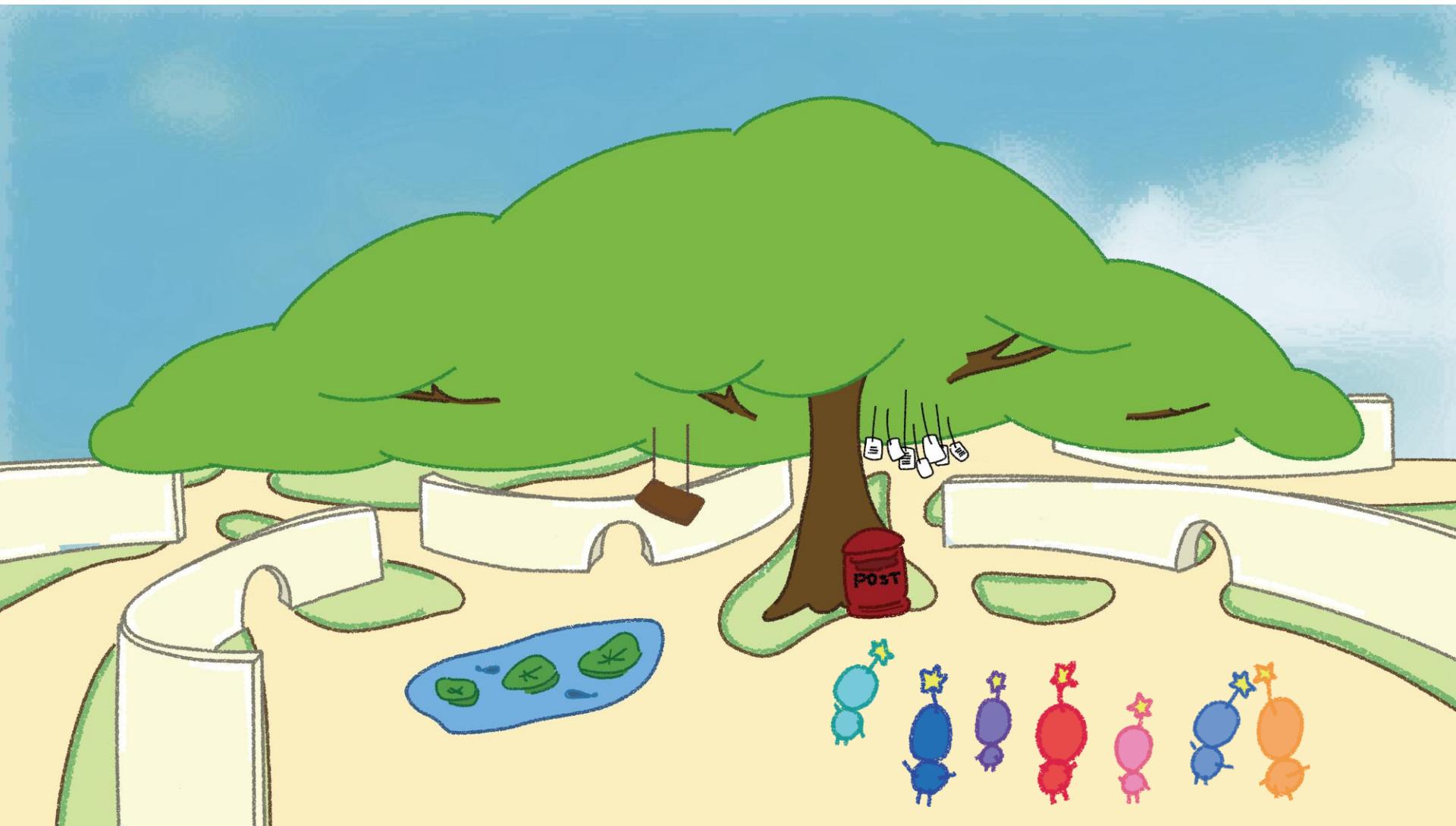
『記憶をつなぐ思い出の公園』



かなちゃん「あれ？？どこからか足音がきこえてくるよ」

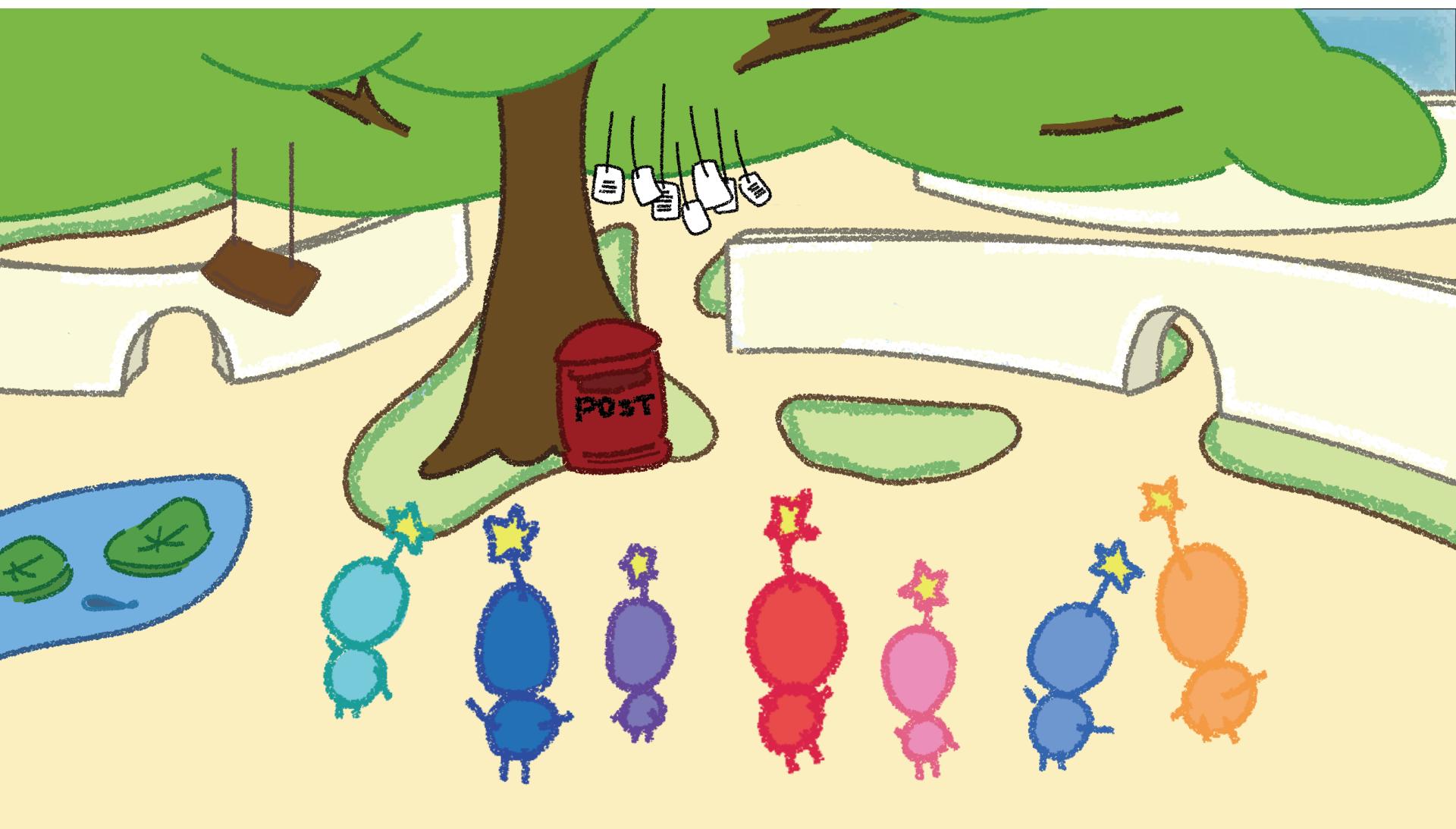
???? 「とことことこことこ」

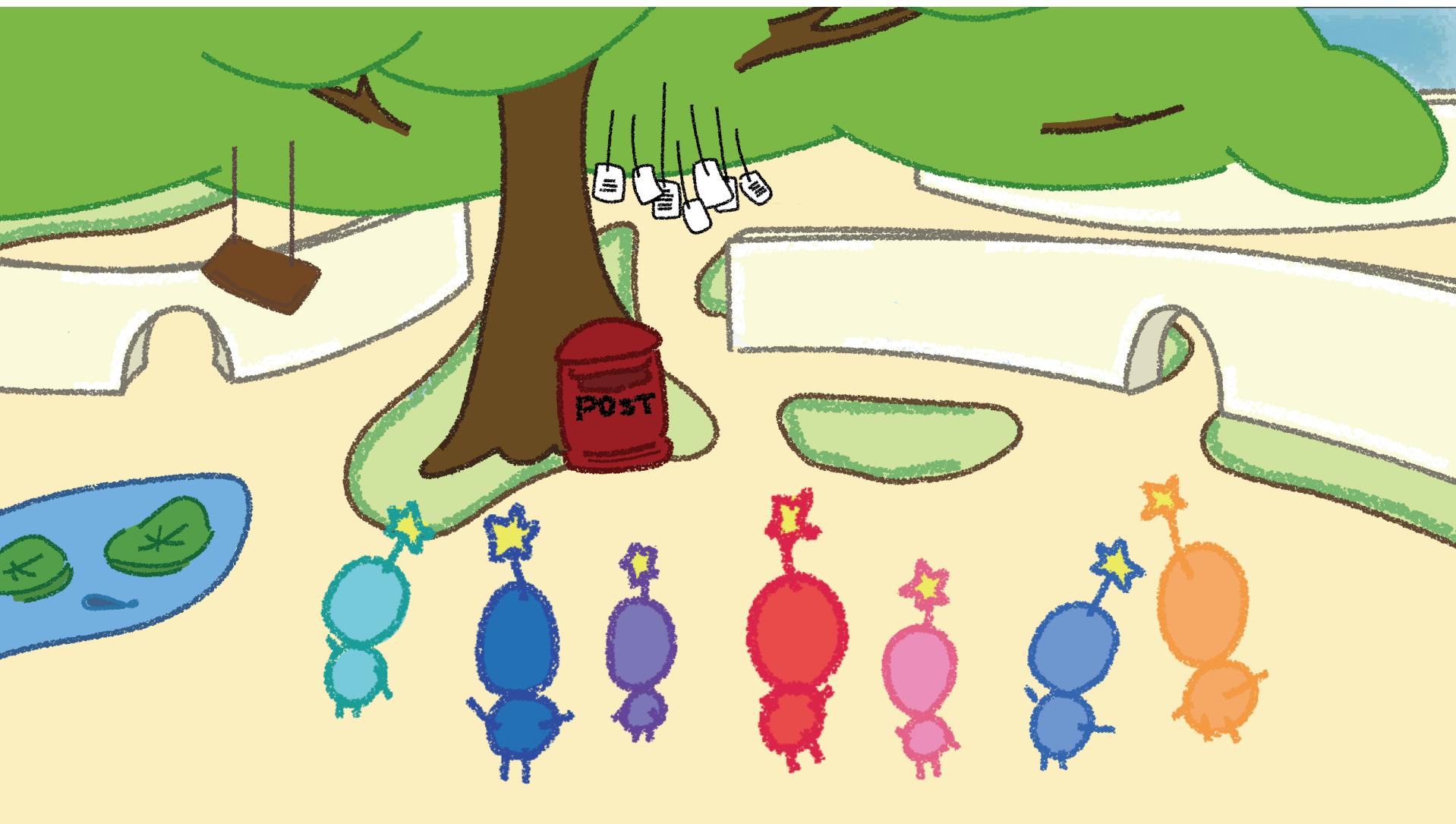




かなちゃん「あれ？誰だろう？」

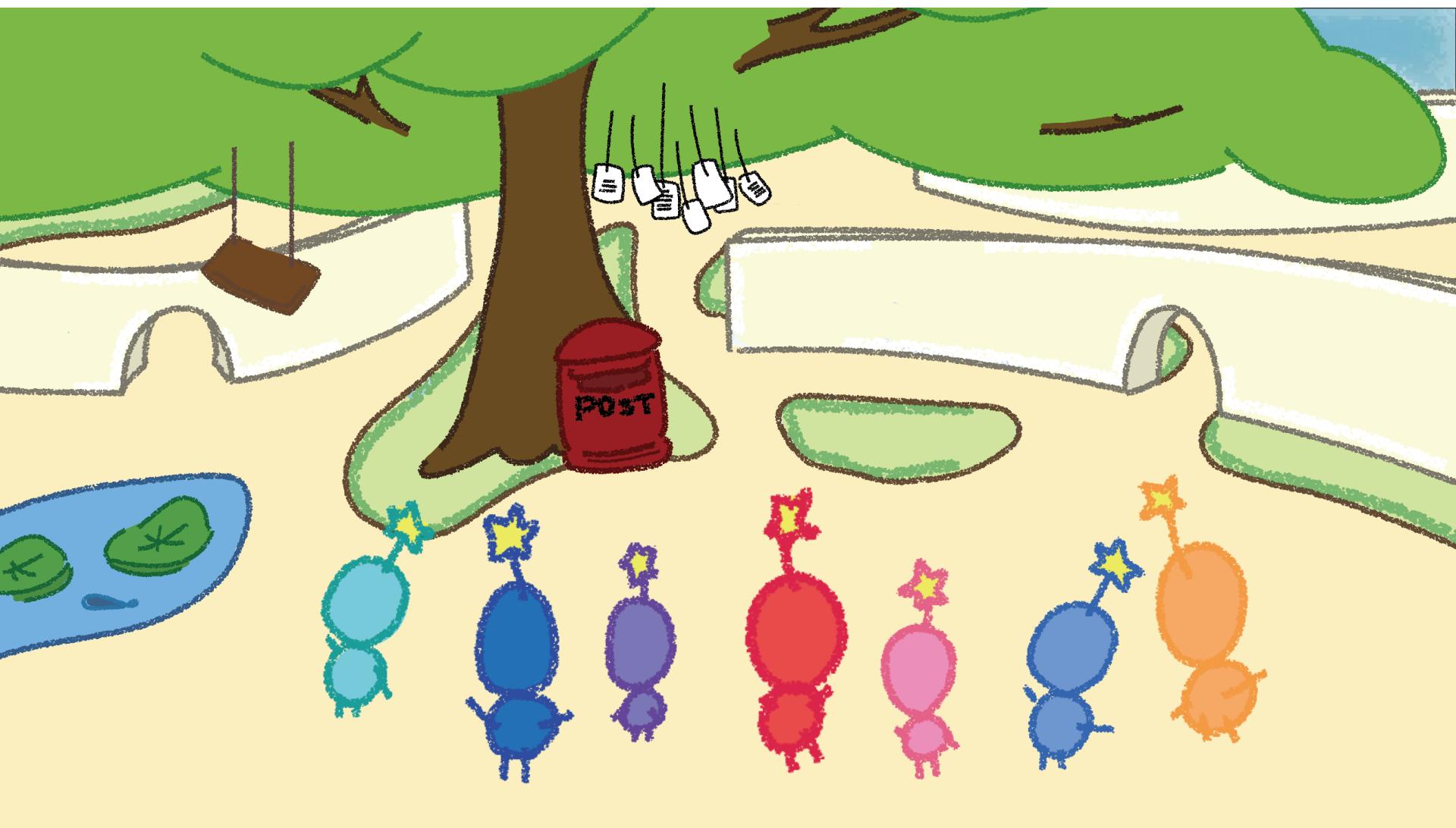
ピカリん「こんにちは！僕たちはピカリん！！！」





かなちゃん「きみたちはどこからきたの？」

ピカリん「この公園からきたよ！」



かなちゃん「そうなんだ！その公園のことを知りたいな！」

ピカリん「じゃあ一緒にまわってみよう！！」

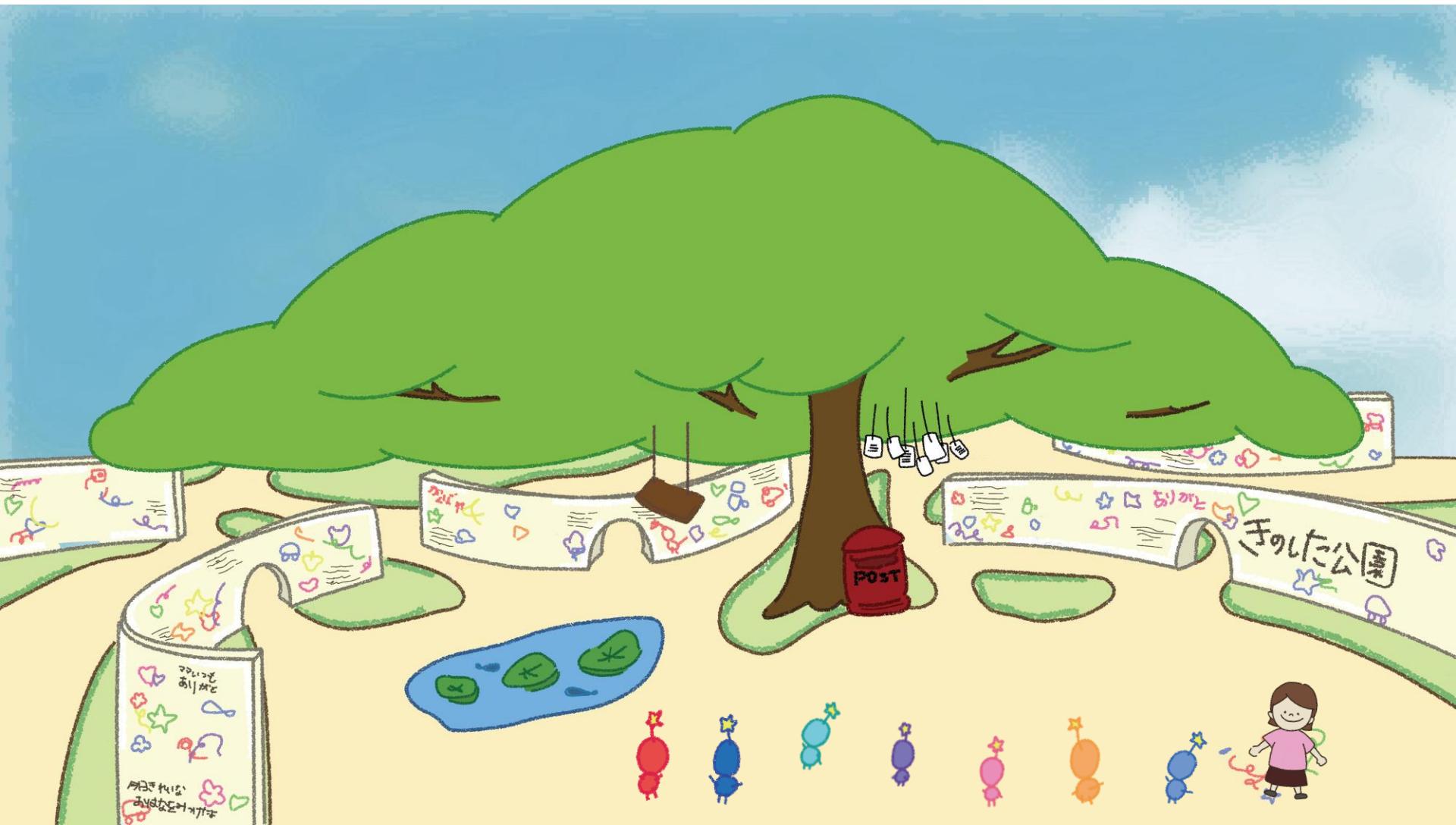


かなちゃん「説明よろしくね！楽しみだな～」

ピカリん「まず、公園に来ると僕たちがお出迎えするんだ！」

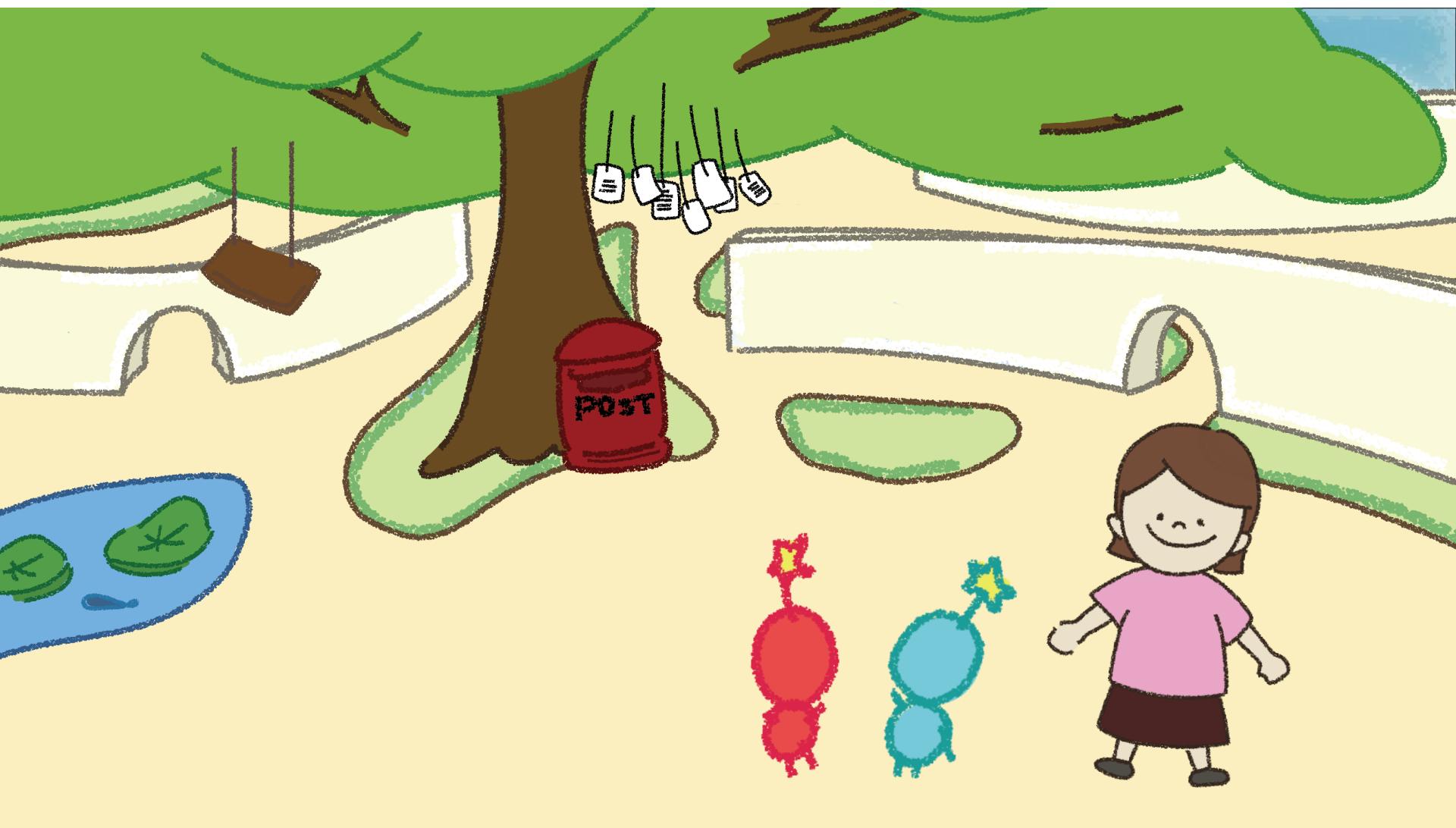


ピカリん「今日の気分を伝えると
きみにぴったりのコースを案内するよ！」



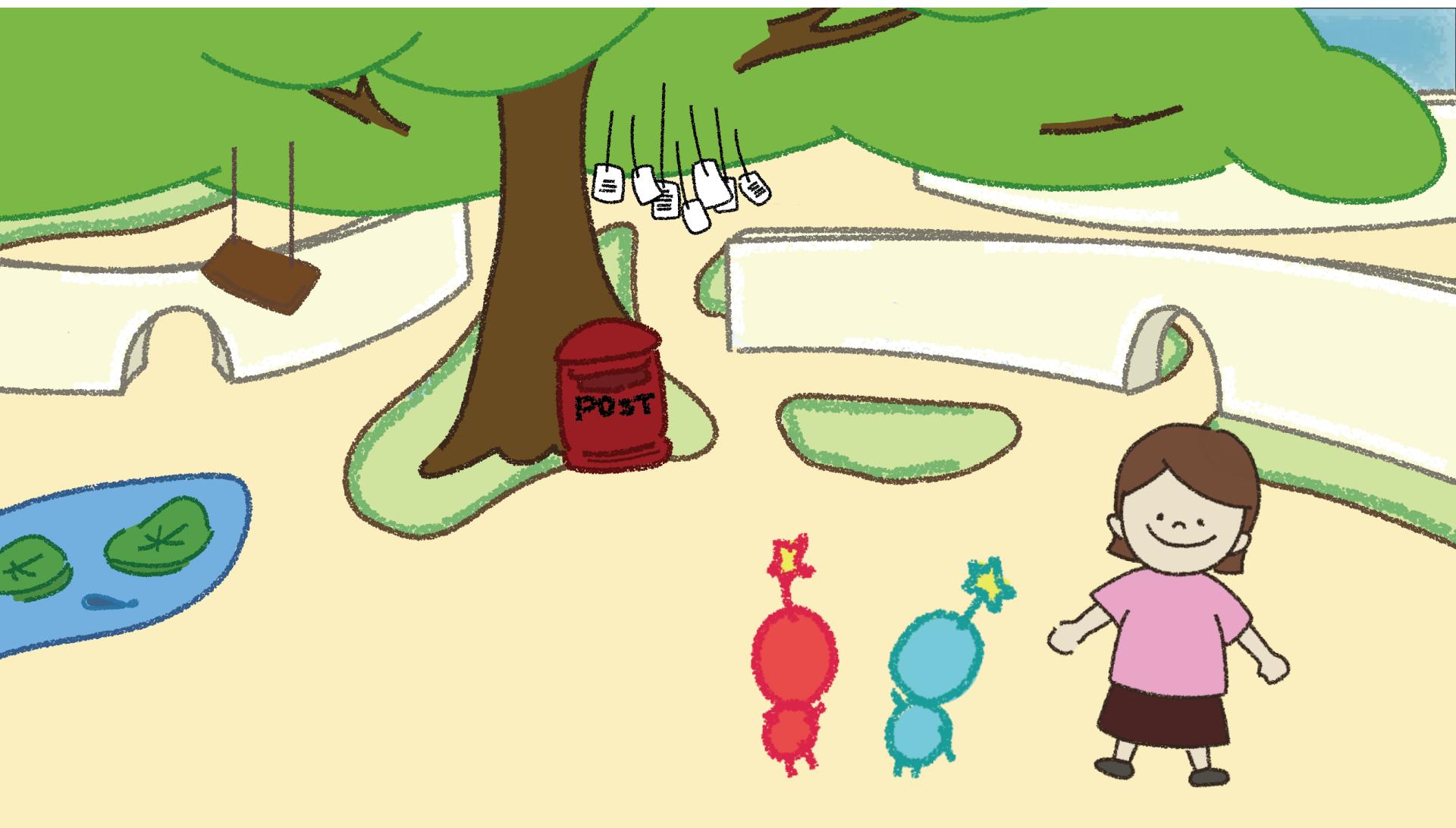
かなちゃん「すごい！みんなにあったコースが見つかるんだね！」

ピカリん「そうだよ、きみの今の気持ちはどんなかんじ？」



かなちゃん「今日は朝から緊張してるんだよね～」

ピカリん「それなら、みんなの幸せ話を知れるコースを案内するね！」



かなちゃん「うん！みんなの幸せをわけてもらおうかな！」

ピカリん「これは、らくがきうおーるっていうんだ！」



かなちゃん「わあすごい！ただの壁じゃなくてみんな
メッセージや絵がかかっているんだね」

ピカリん「うん！ここにきた人の楽しい思い出や
エピソードが記憶されるんだ！」



ピカリん「みんなの幸せパワーで、僕の頭の上の星が光るんだ！」



かなちゃん「おおお！ とってもきれいだね！」

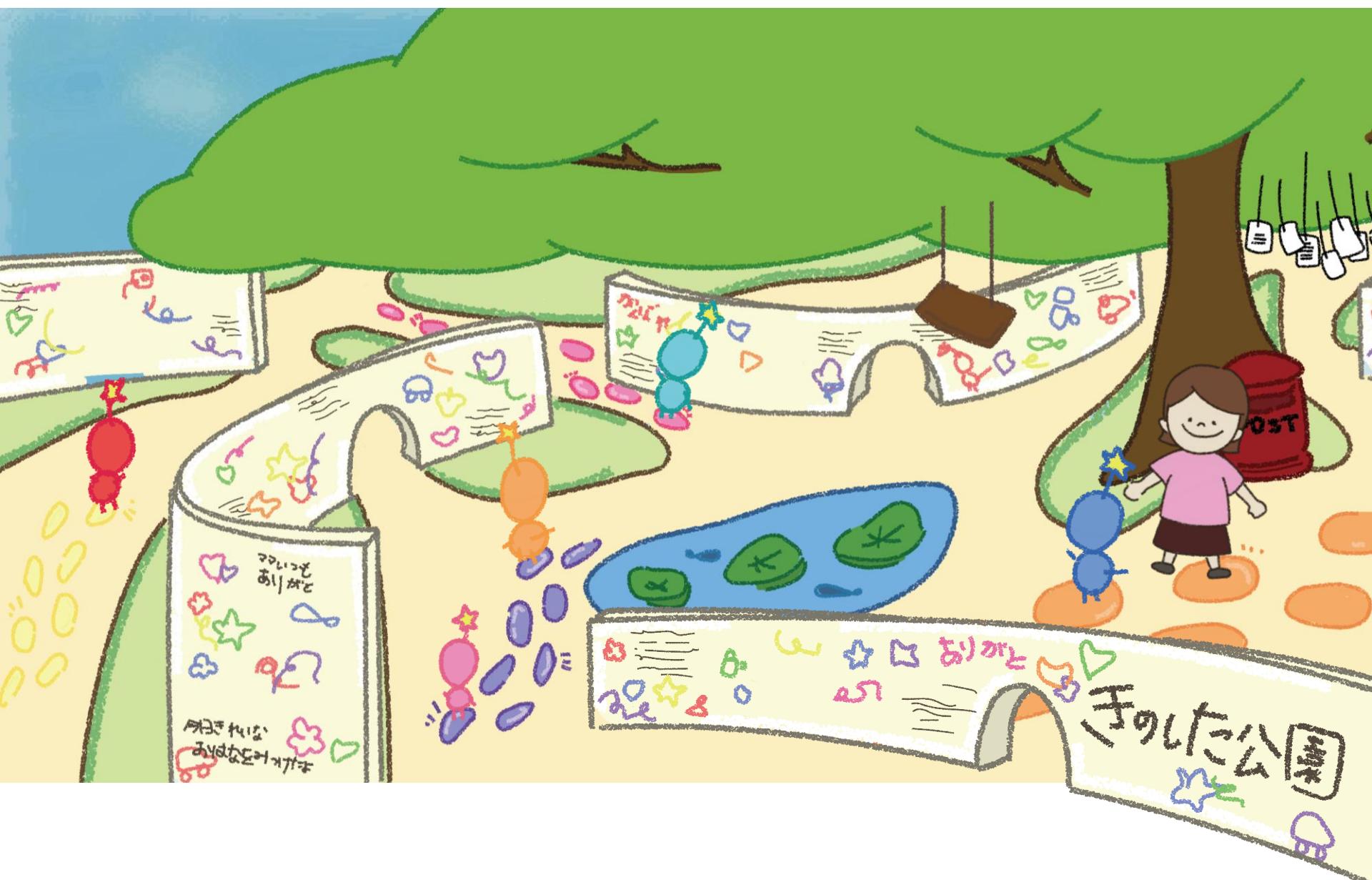
ピカリん「ねえねえ、次はここを歩いてみて！」





かなちゃん「すごい！音がなってる！」

ピカリん「みんなが楽しくなるように、上を通ると音がなるんだ！」





ピカリん「これはあかいぼすっていうんだ！
ここには送りたい人に向けて手紙をかいていれてね！」

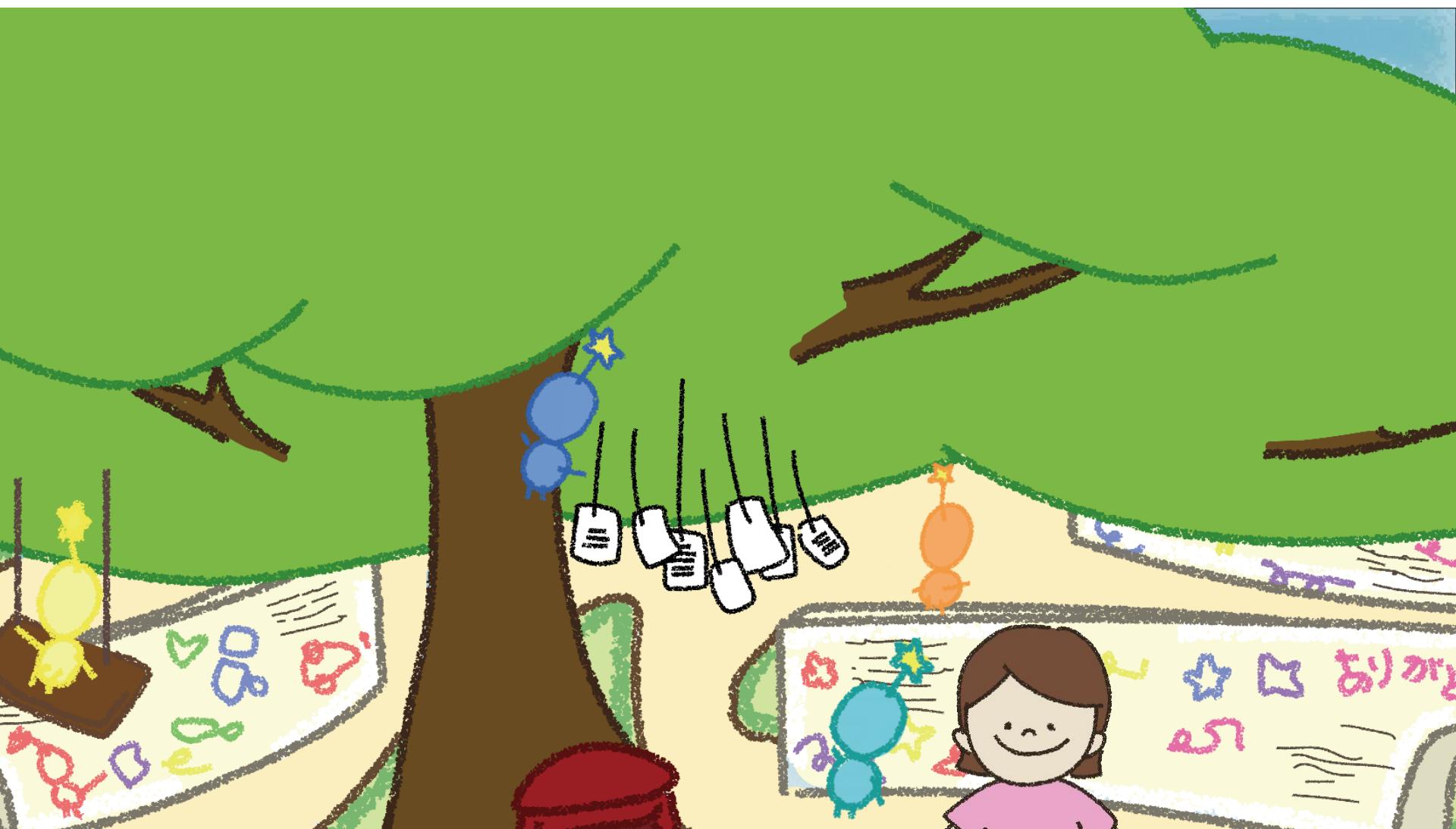


かなちゃん「手紙はどこにいくの？」

ピカリん「上を見てみて！」



ピカリん「僕たちがみんなの手紙をこの木に飾るんだ！」



かなちゃん「みんなからお返事がもらえるんだね！」

ピカリん「そうだよ！みんなの幸せを集める公園なんだよ！」



かなちゃん「みんなの幸せがピカリんの星を育てるんだね！」

ピカリん「その星がみんなのまちをてらすんだ！」



かなちゃん「えー！！見てみたい！」

ピカリん「今日は特別に夜の景色も見せてあげる！」



かなちゃん「やったー！見たい見たい！」

ピカリん「じゃん！これが夜の公園だよ！」



かなちゃん「あ！ピカリんがのぼってる！」

ピカリん「こうやって木に星を集めるんだ！」



ピカリん「こうやって木に星を集めるんだ！」



ピカリん「見て！これがみんなの幸せパワーだよ！」



かなちゃん「すっごく明るくてきれい！」

ピカリん「こうやって公園の力でまちをあかるくするんだ！」



かなちゃん「この公園から世界が明るくなるんだね」

この公園のように日常の幸せから世界を明るくできると考えています



みんなの心が明るくてらされますように